第42回広瀬川創生プラン策定推進協議会 議事録

■ 日　　時:令和 3 年 3 月 17 日（水曜日） 10：00～11：30

■ 場　　所:仙台市役所本庁舎 2F　第 1 委員会室

■ 出席委員:小祝 慶紀 会長、小田 隆史 会長代理、
岩崎 雄一郎 委員、大庭 克己 委員、佐々木　敦 委員、須藤　誠元 委員、
髙橋　順子 委員、豊嶋　純一 委員、西大立目　祥子委員、手島　慧 委員
（代理）、本郷　敏章 委員、牧野 弘明 委員、谷田貝　泰子 委員

■ 欠席委員:多田　千佳 委員、深松　努　委員

■ 事 務 局:仙台市建設局百年の杜推進部河川課

■ 内　　容:

＜次　第＞

１．開　会

２．挨　拶

３．議　事

（１）広瀬川創生プランの中間見直し（案）について

（２）令和 2 年度重点事業の報告及び令和 3 年度重点事業の設定について

４．報　告

第 40 回全国都市緑化仙台フェアについて

５．閉　会

■ 要　　旨:

●広瀬川創生プランの中間見直し（案）について、委員の意見に基づき一部修正し、事務局にて策定の手続きを行う。

●令和 3 年度重点事業の設定について事務局案が了承された。

■ 議 事 詳 細：

1. 開会

〇司会（吉田課長）

ただいまより「第42広瀬川創生プラン策定推進協議会」を開会する。本日、司会を務める河川課長の吉田である。

≪配布資料の確認≫

本日、多田委員、深松委員においては、所用により欠席とのご連絡をいただいている。また、野澤委員の代理として手島慧（てしま　けい）様に本日出席いただいている。

2. 挨拶

〇司会（吉田課長）

はじめに、小祝会長からご挨拶をお願いしたい。

〇小祝会長

年度末の忙しい時期に参集いただきお礼申し上げる。震災に節目というのはないが、震災から10年ということで、皆様それぞれにいろいろな思いがあると思う。そのような中でも、広瀬川は脈々と流れ続け我々を見守っている。貴重な仙台市民の財産である。今回も実り多い議論となるよう進めたい。

〇司会（吉田課長）

続いて、建設局長の千葉より挨拶申し上げる。

〇千葉建設局長

本日は、お忙しい中、ご出席いただき誠に感謝する。

今年度は新型コロナウィルス感染症の影響により、本市が関係する様々なイベントが中止または規模縮小となった。次年度からはワクチン接種も始まり、コロナ禍にあってもイベントの開催というのは、しっかりやっていきたいと思っている。既に報道されているとおり本市を含む宮城県では、感染率が全国でワーストに入るほど感染者が増加しており、気持ちを引き締めていかなければならないと思っている。

今年度は「仙台市基本計画」、それと「緑の基本計画」の改定時期となっており、どちらも今後10年の計画として取りまとめている。このうち「仙台市基本計画」については、間もなく取りまとめる予定である。この「仙台市基本計画」では「The Greenest City SENDAI」という緑を基軸とした最上級の表現を使って、まちづくりの方向性を示している。

「緑の基本計画」では「グリーンインフラ」など新たな取組みを位置づけている。広瀬川もこのグリーンインフラの位置づけの一つとして、緑や川、水の流れなどを基軸とした街づくりの役割を担った重要なものである。広瀬川が有する機能を最大限活用しながら街づくりに活かしていくことが必要であり、こうした取組みを推進していく広瀬川創生プランは重要性が高まっている。

本日の議事は「広瀬川創生プランの中間見直し（案）」であり、いただいたパブリックコメントに基づき、最終的な案を取りまとめたので、皆さまのご意見をいただきたいと思う。本日、この見直し案を確定さ

せる協議会となるのでよろしくお願いしたい。

3. 議事

○司会（吉田課長）

本日、出席いただいている委員が、全委員の過半数に達しているため、本会は成立している。以降の議事の進行は、要綱第6条に基づき小祝会長にお願いする。

○小祝会長

まず、会議の公開または非公開について確認したい。非公開となる事案がないので、今回の協議会は公開としてよろしいか。

＝一同了承＝

次に議事署名は五十音順で大庭委員にお願いしたいが、よろしいか。

＝一同了承＝

＝大庭委員了承＝

それでは次第に沿って進めさせていただく。「広瀬川創生プランの中間見直し（案）」について事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長　佐藤）

資料1、資料2に沿って説明。

○小祝会長

ただいまの事務局からの説明について何か意見のある委員はいるか。

○豊嶋委員

1及び2番の体験型学習に関する意見についてである。認知能力を高めたいという学びだけでなく、柔軟な考え方とか、最近よく言われている非認知能力を伸ばす学習というのも注目されている。教育部局だけでなく、例えば子供未来局や児童館、のびすく、そういったところの取組みも広瀬川に関わってもらうなど、そのような連携があっていいのではないかと思った。

また、11番の意見に対する仙台市の考え方についてである。「取組事業の実施に必要な人員の補完」というのは、表現として直接的過ぎるのではないかと思った。

人材派遣でもするのかという誤った受けとめをされる可能性があるのでは、と気になった。例えば、「他の団体との連携による人員の補完」とか、「効率的な事業の実施の助言」とか、そういった表現のほうが良いのではないかと思った。

○小祝会長

貴重な意見をいただき感謝する。最初にいただいた意見は、非認知能力向上のための教育として、例えば子供未来局や児童館などとも連携があってもいいのではないか、という話であった。

意見の1及び2番で子供を対象とした広瀬川の体験学習に関して市民の意見が提出されているが、片平市民センターで児童館長も兼ねておられる髙橋委員に、児童館との連携について取組事例や、今後考えていることなどがあったら助言いただけないか。

○髙橋委員

片平児童館では、今年度の夏から秋にかけて、近隣の5つの児童館の子供たちとライフベスト着て川に入る、という体験型の川遊びを実施する予定であったが、新型コロナウィルスの関係で6月に中止を決定した。仙台市の環境局環境共生課の出前講座として実施しているもので、これに応募したものである。次年度以降の取組みとして検討していきたいと思っている。

また、昨年度は、東北大学の職員の方にお願いして、親子で川の地層や数百万年前の貝化石を実際に見て周るということを行った。数百万年前の貝化石は特に規制もなく誰でも川に行って取ることができる。昔のいろんなものが、狭いところにたくさん凝縮されて残っており、こういうものをもっと活かしていくと、いろいろな学びが展開できると思った。

○小祝会長

助言いただき感謝する。すでに、児童館とはそのような連携が進められているということである。これを踏まえ豊島委員からの意見に関して、事務局からお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長　佐藤）

非認知能力の向上などの観点から子供未来局との連携などについて提案をいただいたが、どのような表現にするかは事務局で検討させてほしい。

それと11番の意見に対する本市の考え方の「必要な人員の補完」に関する意見についてであるが、いくつか豊嶋委員から例示をいただいたが、こちらも表現を事務局で検討させてほしい。

○小祝会長

それでは、事務局で検討するということでよろしいか。

○豊嶋委員

了承

○小祝会長

他に何か意見のある委員はいるか。

○谷田貝委員

10番に広瀬川市民会議に関する意見があるが、よく理解できる意見である。現状の広瀬川市民会議は一つの団体なのかネットワーク組織なのか、仙台市と一緒に活動をしているが、気軽に個人が参

加できるような枠組みにはなっていない。当初想定したネットワーク組織とは異なる状況になっている。資料2の37ページに推進体制図があり、この中で広瀬川市民会議や他の活動団体は「新たな連携・協力」とある。この部分をもっと強化していけるような枠組みを新しくつくれると良いのではないかと感じている。個人も参加したくなるような新たなネットワークや枠組みを新たにつくれると良い。例えば実行委員会形式にして委員を公募して、みんなで広瀬川について考えたり、イベントとして交流会や他の市民意見にもあったようなシンポジウムを企画したり、みんなで考えて多くの活動団体が参画して、こうした機会を通じてお互い知り会い、仲間づくりができるような仕組みができると良いと思った。

○小祝会長

広瀬川市民会議についての意見であった。谷田貝委員からは前回の協議会において、交流の機会を設けることが必要なのではないか、という意見をいただいた。今回、資料2の39ページに「支援の例」に、このことを追記している。ただいまの谷田貝委員の意見がこれに関係していると思う。このことについて事務局から回答をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長　佐藤）

広瀬川市民会議は市民や活動団体が気軽に参加できるネットワーク組織として、広瀬川創生プランに位置付けてきたものであり、今回の中間見直しでもその位置づけは継承している。しかし現状では、気軽に市民や活動団体が参加できる状況にはなっていない。

今回の見直しにより、広瀬川市民会議と他の活動団体との連携を本市も支援していくこととしている。イベントなどを通して、きっかけづくりをしていくなど、いろいろな方法が考えられるが、どのような支援として取組んでいくのか、具体的な方法は今後検討していきたい。

○小祝会長

団体なのかネットワーク組織なのかという意見や、資料2の37ページに推進体制図における枠組みの強化の方法についても谷田貝委員から提案いただいたので、事務局で検討いただいきたい。谷田貝委員から何か補足などはあるか。

○谷田貝委員

「広瀬川オープン会議」のような形で、興味のある人、少し関わってみたいという人が参加できるような会議や、現在、広瀬川に関する活動をしている団体に呼びかけてたくさんの活動団体が参加できるような交流会や活動発表会のようなものをイメージしていた。

○小祝会長

そのような提案があったので、事務局には検討いただきたい。仙台は支店経済の街なので転入転出者が多い。そういった人たちに広瀬川の魅力を知ってもらい次の転勤先でその魅力を伝えてもらうと良いと思う。そのためには、気軽に参加できるようなネットワークづくりというのは必要だと感じた。そのようなことを踏まえて資料2の37ページの推進体制の進め方について事務局で検討いただきたい。他に何か意見はあるか。

○西大立目委員

資料2の37ページの図についてである。右上に「市民」と「企業」とあり、これが一つのくくりになっている。市民と企業は別にした方が良いと思う。企業は組織として動くが、市民は個別に動く。そうした人たちを、どのように参加しやすく誘導していくかということを考えると、市民と企業は同じ枠組みの表現ではないと思うので、この部分を修正した方が良いと思う。あるいは一人ひとりが参加しやすい仕組みをつくるとか、そういう検討が必要ではないかと感じる。

○小祝会長

資料2の37ページの推進体制図の右上にある「市民」「企業」の主体の問題であると思うが、これをそれぞれ別枠で記載するというイメージだと思う。そのあたりを考慮していただきたいと思うが、事務局としてはどうか。

○事務局（広瀬川創生室長　佐藤）

市民と企業では立場が異なると思うので、市民と企業をそれぞれ分けた形に修正したい。

○小祝会長

他に何か意見はあるか。

なければ、今回事務局で提案のあった中間見直しの内容について、先ほど各委員からあった意見を踏まえて事務局でとりまとめをお願いしたいと思うが、よろしいか。

＝一同了承＝

次に、令和2年度重点事業の報告及び令和3年度重点事業の設定について事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室　佐藤）

資料３ に沿って説明。

○小祝会長

今年度はコロナの影響もありイベントの実施が少なかったわけであるが、今回報告できるのは、ただいま説明があった広瀬川スマホ写真教室である。この企画は仙台市であったが興味深い企画であったと思う。何か意見や感想などあるか。

○西大立目委員

こういった企画を重ねていき、いつまでも仙台市だけが主催するのではなく、参加者の中から、頻繁にインスタグラムやツイッターをやっているような人達を狙って、主催者になれるような誘導や育成ができると市民ベースの広がりが出てくるのではないかと感じた。

○小祝会長

貴重な意見だと思う。参加者の中の主催者となるような人たちが、広瀬川市民会議のようなところにも参加して、さらにネットワークが広がっていくというのが重要であると感じた。

事務局に伺うが、参加した12名の方からアンケートにより意見があったが、他にどんな意見があったのかお聞かせいただけないか。

○事務局（広瀬川創生室長　佐藤）

他の意見として、「他の参加者に声をかけたかったけどかけにくかった」、「他の参加者と意見交換する時間がほしかった」といった参加者同士の交流に関する意見を複数いただいていた。

今回の企画にあたっては、講師の方と参加された方がコミュケーションをとれるように配慮していたが、こうした参加者同士の交流ということに期待されるとは全く想定していなかった。

先ほどの議事の広瀬川創生プランの中間見直しにおいて、活動団体同士の交流の機会の創出というのを、プランに位置付けたが、こうした参加者同士についても「交流」というのをひとつキーワードにしながら、SNSで広瀬川の魅力を発信できる人材の発掘などもしていきたい。

○小祝会長

そういったSNSで発信してもらえそうな人材を発掘して連携できたらいいと思う。他に何か意見あるか。

○手島委員

イベントの参加者は高齢の方が多かったようであるが、先ほど支店経済というお話もあったとおり、仙台には若手の社会人が県外から多く来ている。今年度、市民局の「仙台まちづくり若者ラボ」という事業に携わったが、仙台の魅力発信とか若者を巻き込むというのは、SNSとの親和性が高く、中長期的な視点をもって若者に広瀬川というのを身近に感じてもらうというのが重要なのかなと思った。

○小祝会長

貴重な意見に感謝する。学都仙台ということで学生も多いし、支店経済の街であることから交流人口も多い。若い人達との連携というのも今後の課題であると思う。事務局でもそのあたりを考えながら次年度の事業に取り入れていってほしい。事務局から何かあるか。

○事務局（広瀬川創生室長　佐藤）

若い人との連携というのも意識して考えていきたい。昨年度は一眼レフカメラを所有している方を対象にこうしたイベントを実施したところ、高齢者の方が多かったということもあり、今回は若い方の応募を期待してスマホによる企画にした。結果としては、狙い通りにはいかず若い方の応募は少ない状況であった。

ただ、今回参加者の半数以上がインスタグラムを既に利用しており、これまで利用していなかったという残りの方全員も、これを機にインスタグラムを利用したい、と非常に前向きであった。高齢の方はSNS等はやらない、あるいは興味がないという先入観があったが、今後は若者が使っているSNSというツールを使い、広瀬川をテーマとして若者と高齢者の交流などもできる企画も考えていきたい。

○小祝会長

手島委員には貴重な意見をいただき感謝する。こうした意見を踏まえて次年度検討していただきたい。他に意見はあるか。

○本郷委員

広瀬川スマホ写真教室についてである。先ほどの議事で広瀬川創生プランの修正として「来訪者」の文言を追記していただいたが、仙台市以外の方々はこういう企画をどこまでの人が知っているのか、周知がどこまでされているのか、にもよると思うが、街中の企画においては商店街の写真を撮影したりする企画をPRすると全国から集まってくるイベントもある。写真などSNSにつながるイベントに興味ある方が非常に多い。どこまで需要があるかというのは分からないが、ある程度広い範囲でPRできると非常に良いと思う。

先ほどの話で「交流できる機会があると良かった」という意見があったということだが、同じような関心を持っている方々が意見交換する場というのは重要である。参加される方も求めているのは大きいと思う。企画の内容からイベントの規模を大きくしていくというのは難しいと思うが、今回、抽選で参加者を絞っているということは、落選した人たちもいるわけで、いろいろな需要はあるのだと思う。広瀬川の関心を広げていくうえで、いろいろな有効な企画になっていくと思うので、工夫しながら規模的なものも広げながらできれば良いのではないかと思っている。

○小祝会長

貴重な意見をいただき感謝する。来訪者の参加を促すPR方法の考え方などについて話を伺った。資料2の33ページに「来訪者」という文言が新たに入ってくるので、ただいまの意見も踏まえて次年度以降の重点事業を検討していただきたい。他に意見はあるか。

○豊嶋委員

資料2の40ページにおける重点事業認定制度についてである。ここに認定の基本的な考え方として「多くの市民が関わることができる」とあるが、広瀬川1万人プロジェクトは市民が広く参加できるものではないし、先ほど報告があった「広瀬川スマホ写真教室」の参加者も12名であったことなどを踏まえると、参加者の人数など「数」で重点かどうかの重みを図るのは適切ではなく、見直しが必要ではないかと思った。例えば「多彩な市民」とか「多くの市民交流が生まれる」とか、そういった内容に修正したほうが良いのではないか。コロナの関係で重点事業の参加者数を減らしていることなども考えると、重点事業として認定するのが難しくなっていくのではないかと思った。

○小祝会長

重点事業の認定についてのご意見であるが「多くの市民」という捉え方、定義に関することだと思う。今年度はコロナという特殊な事情があり、多くの市民の参加を促すことができなかったということだと思うが、事務局から何かあるか。

○事務局（広瀬川創生室長　佐藤）

指摘のとおり数だけを追うというのは、現在の情勢からは適切ではないかもしれない。この部分につ

いて事務局にて検討させてほしい。

○事務局（建設局長　千葉）

事務局で検討はさせていただくが、ここは理念的なものであり、追い求めていきたい部分の表現であると考えている。実際に109万人市民が全て関わるというのは極めて困難なことであるが、我々の想いとしては、できるだけ多くの市民、多彩な市民の方に広瀬川を知ってもらい、触れ合ってもらいたいという想いであり、そういった枠組みの「基本的な考え」とさせていただきたい。

○小祝会長

補足の意見をいただき感謝する。資料2の40ページに「重点事業の基本的な考え方」が掲載されているが、ここでの「基本的な考え方」は、重点事業の方向性となる理念を示しているということである。文章表現についてどうするかは、事務局で今後検討してほしい。

他に何か意見はあるか。

それでは、令和2年度重点事業の報告と令和3年度重点事業の設定については、これで承認いただいたということにする。

4. 報告

次に、次第の4報告に移りたいと思う。第40回全国都市緑化仙台フェアについて事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（全国都市緑化仙台フェア推進担当課　千代谷）

資料4　に沿って説明。

○小祝会長

ただいまの第40回全国都市緑化仙台フェアの報告について、何か意見や感想などあるか。

○小田会長代理

花壇の鑑賞にとどまらず、大きな意義を設定して、これを発信するこの取組みは大変重要なものだと思った。震災からの復興と、広瀬川も含めた持続可能な地域づくりともリンクして、防災の街づくりを発信していくことは興味深い。この周辺で仕事をしている私としても、ここでこのような取組みをしていただけるのは大変楽しみである。

○小祝会長

貴重な意見をいただき感謝する。ほかに何か意見、感想などあるか。

○西大立目委員

都市緑化とは何かを問いかけるようなフェアになってほしいと思う。単にきれいな花壇を整えて、美しく花が咲いて、一年草を植えて次の年には引き抜かれてしまう、そういう緑化フェアにならないようにしてほしい。仙台市における都市緑化というのは切実だったと思う。沿岸部に松の木を植えたのは、植

えなければ新田開発ができなかったからである。また、資料に青葉通りでケヤキを植えている写真が載っているが、戦後、屋敷林が全部焼けてしまった後に、屋敷林復活のために青葉通りにケヤキを植えたという経緯もある。また、今回フェアの会場になる場所も過去には武家屋敷であったが、生活を成り立たせるために緑化していたのだったと思う。楽しく、人が集うというのは良いことだが、仙台市が発信すべき「緑化」というのを全国の人に届けたい、という思いを抱いた。

○小祝会長

貴重な意見をいただき感謝する。「杜の都・仙台」の所以というのを踏まえて取組んでほしいということだと思う。基本理念の二つ目のところにも、西大立目委員が話されたようなことが記載されている。今の意見を参考に取組んでほしい。他に意見などなければ、報告事項は以上とする。

5. 閉会

○小祝会長

本日の議事及び報告は以上となるが、岩崎委員、手島委員、豊島委員からそれぞれ情報提供があるので、お願いしたい。

＝各委員より情報提供＝

これまでの委員からの意見・提言について、事務局でまとめていただき議事録にて確認することとする。また、本日、委員からいろいろな意見・提言をいただいたが、これらについて事務局で検討し広瀬川創生プラン中間見直し案に反映し回答いただきたい。

本日の議事及び報告はこれで終了とし、マイクを事務局にお返しする。

○司会（吉田課長）

議事の進行に感謝申し上げる。昨年度から「広瀬川創生プランの中間見直し」に着手し、今日まで検討してきたが、本日いただいた意見も踏まえ、若干修正したうえでとりまとめていきたい。

本日検討いただいた広瀬川創生プランは4月1日に施行し、その後、製本した新しい広瀬川創生プランを委員の皆様にお配りしたい。また、委員より情報提供いただいた内容については事務局としても参考にさせていただきたい。

以上

この議事録について、会議の内容に相違ないことを認めます。

令和　３年　　月　　日

議事録署名人

広瀬川創生プラン策定推進協議会　会　長　　㊞

委　員　　㊞